平成２３年度　自己評価計画に対する最終評価報告書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組み(改善策等)
１　高い専門知識と深い生徒理解に裏打ちされた教育実践に取り組めるよう、**教師の資質向上**に努める。	①　生徒理解に根ざした授業実践に向け、研究授業・公開授業、指導案検討会等を実施し、授業力向上を図る。	「授業はわかりやすく工夫されている」と評価した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	全教科・全学年の肯定評価 ８４．０％（評価**A**） （第２回授業評価結果） １年　８６．９％ ２年　８０．５％ ３年　８４．８％ 専攻科　８４．８％	研究授業を７回実施した。指導案検討会、研究協議会を随時開催し、教科間で授業展開の手法、生徒理解などについて意見交換を行った。 授業で得た知識を活用し、思考・発言する場面を意図的に設け、意欲的に学習に取り組むことのできる授業づくりを今後も目指す。
	②　教師としての資質向上を目指した職員研修会を実施する。	研修会の内容を理解した職員の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９０％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満　である。	「ＡＥＤ講習会」：１００％ （評価**A**） 「思春期における女子生徒の行動心理と病気」：１００％ （評価**A**）	夏季休業中に「ＡＥＤ講習会」、「思春期における女子生徒の行動心理と病気」の２回の校内研修会を実施した。ＡＥＤの操作や生徒理解の研修については、大変重要な研修内容であり、職員間でも意識が高く、定期的に実施してほしいとの意見があった。

学校関係者評価委員会の評価	授業評価のデーターにおいて評価の低い項目について、原因をさぐり改善に結びつけていくことが大事である。 公開授業については参観だけではなく、アンケートをとって意見を吸い上げるなどしてみるのも良いのではないか。
学校関係者評価者委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	授業評価のデーターをもとに個別に面談し、授業改善につなげていく。 学習意欲がわく教師側の内容工夫と、専門教科の学習の土台となる一般教科の指導を強化する。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組み(改善策等)
２ 個に応じた学習指導により、看護師・介護福祉士**国家試験合格率１００％**を目指す。	① 【衛生看護科】 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、到達レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	＜高校＞ 60点以上の生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　である。 ＜専攻科＞ 偏差値38未満の生徒の割合が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　　である。	＜高校＞ １年　７２％（評価　**B**） ２年　６４％（評価　**C**） ３年　７０％（評価　**B**） ＜専攻科＞ １年　模試（1/6） 必修３人（評価　**D**） ２年　模試（2/1） 必修２人（評価　**C**） 一般・状況０人 （評価　**A**）	＜高校＞ 各学年の全国模試の偏差値をみると、1 年：53.0、2 年：56.9、3 年：56.5 と非常に高いレベルに位置していた。今後も生徒のレベルアップへの取り組みを強化する。 ＜専攻科＞ １年生：模試偏差値（必修 49.2)。定期考査の補充や演習により知識は定着しつつあるが、専門基礎分野の得点率がやや低く強化が必要。2 年生：国試演習により模試総合偏差値 53 以上を維持した。全体トレーニングを継続し、成績不安定な生徒には個別指導を強化し、２月の国家試験に全員合格した。
	② 【健康福祉科】 習熟度が一定レベルに達するまで、個別指導を実施する。	＜１、２年生＞ 60点以上の生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　である。 ＜３年生＞ クラスの平均得点率が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　である。	１年　８０．８％ （評価　**A**） ２年　８３．７％ （評価　**A**） ３年　８３．４％ （評価　**A**）	１年生：「社会福祉基礎」での到達度が最も低かった。学習内容は、自立と尊厳・社会保障制度等、難しい分野であるため、わかりやすく理解しやすい授業の改善に努める。 ２年生：「こころとからだの理解」での到達度が最も低かった。今後の対策としては、範囲を細かく分けての小テストと補習を実施することにより、知識の定着を図る。 ３年生：国家試験の結果は、左記のような数値で全員合格を果たした。新国家試験であったため、傾向と対策が十分ではなかったが、苦手科目の強化と小テストによる学習定着による成果が大きい。今後も個々の分析とその対応を確実に行っていく。

学校関係者評価委員会の評価	国家試験合格に向けて頑張っている。個別指導の徹底を今後も継続してほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	どのレベルまでに下位層の成績を引き上げなければならないのかを明確にし、国家試験の傾向対策など今後も個々の分析とその対応を確実に行っていく。

重点目標	具体的取組	現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組み(改善策等)
３ **地域**の医療機関・福祉施設等**を支える人材育成**について、本校の大きな役割や高い実績の啓発に努め、**志願者の増加**に繋げる。	① 本校志願者の増加を図るため、説明会や出前授業等を開催する。	説明会や出前授業参加者が「本校への理解を深めた」と回答した人数の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	(理解を深めた／回答人数) 体験入学　215／215 看護・福祉への道 24／24 地区説明会　159／159 出前授業　119／120 ９９．８％　(評価**A**)	地区説明会17会場、参加者162名。個別説明会７中学校、参加者29名。出前授業３中学校で実施。 地区説明会参加者が昨年度より39名増加。本校での高校生活の様子、学習内容、看護師・介護福祉士資格取得後の進路等を映像を交えて説明した。 看護師・介護福祉士の役割と仕事の魅力を発信する機会を多く設定し、啓発活動を継続する。
	② 看護に対する関心を高めるため、中学校の文化祭や地域での健康チェックを実施する。	「本校の看護教育に対して理解を深めた」と回答した人数の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	(理解を深めた／回答人数) ６２６／７３９ ８４．７％　(評価**B**)	健康チェックを 13 会場で実施し、参加者 862 名。アンケート回答者 739 名の内、626 名が理解度を深めたと答えた。 衛生看護科の継続した取り組みを高く評価する声がある一方で、学校の存在を初めて知ったという声も聞かれたため、今後も看護教育への理解度を高める働きかけを継続する。

学校関係者評価委員会の評価	出前授業や体験入学、ドリームプロジェクトなど、高校でどういうことが学べるのかをしっかり発信していくことが大事である。将来の目標が具体化されないと、中学生は田鶴浜高校への進学を選ばない。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	さらに地元中学校からの進学を促すためにも、地域の方々、保護者に選ばれる学校になる努力をする。 健康チェックは、状況に応じた対応ができるように指導する。

重点目標	具体的取組	現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組み(改善策等)
４ 部活動やボランティア活動等の課外活動を推奨し、**心身の調和的な発達**並びに**コミュニケーション力向上**を図る。	① 部活動を推奨する。	個々の生徒が部活動に参加する割合が Ａ　９０%以上 Ｂ　５０～９０% Ｃ　２５～５０% Ｄ　２５%以下　である。 ※３年生は総体・総文まで	後期　（前期） Ａ　５２．８%（６３．３%） Ｂ　１７．４%（１５．６%） Ｃ　９．７%（　４．８%） Ｄ　２０．１%（１６．３%） **Ａ＋Ｂ　７０．２%（７８．９%）**	Ａ＋Ｂが前期７８%から７０%へと減少した。C+Dが３０%の中で、文化部の割合が８４%、学年別では２年生の割合が７７%と高い。文化部では校内の発表や展示などの活動だけでなく、校外の大会や地域・社会行事などへ積極的に参加することも必要と思われる。今年度の結果を踏まえ、次年度の判断基準の見直しも検討したい。
	② 【衛生看護科】 健康チェック、ボランティア等の活動を行い、自ら他者と関わる機会を増やす。	各学年の目標を達成した生徒の割合が Ａ　８０%以上 Ｂ　７０%以上 Ｃ　６０%以上 Ｄ　６０%未満　である。	＜高校＞ １年　７名/５回以上(評価**D**) ２年　８名/５回以上(評価**D**) ３年　30名/３回以上(評価**B**) ＜専攻科＞ １年　36名/３回以上(評価**A**) ２年　５名/２回以上(評価**D**)	＜高校＞各学年目標回数には及ばなかったが、時数では、１年は１１ｈ／人、２年は４．６ｈ／人、３年は８．４ｈ／人と多い。今後も継続し、他者と関わる力を育成する。 ＜専攻科＞専２は休日の補習等によりボランティア実施は難しく、目標を見直す。しかし、ボランティア活動における主体性やコミュニケーション能力は向上しているため今後も継続する。
	③ ボランティアを通して生徒が多くの方と関わりをもつ機会を増やす。	ボランティア経験後の自己評価結果が初回の自己評価より良くなっている割合が Ａ　８０%以上 Ｂ　７０%以上 Ｃ　６０%以上 Ｄ　６０%未満　である。	コミュニケーション能力に対する自己評価が よくなった　７３．３% 変わらない　２４．０% 下がった　２．７% （評価　**B**）	自己評価が「よくなった」という生徒が７３．３%と７割を越えた。自己評価が下がった生徒についても「ボランティア活動を通じて他とコミュニケーションを図ろうとしたがなかなか上手くいかなかった」と関わりを持とうとしている。 今後の取組としては、具体的なコミュニケーション技術を学ぶ機会を設け、実践に役立てられるようにしたい。

学校関係者評価委員会の評価	健康チェックやボランティア活動を通じて、生徒のコミュニケーション能力が高まっているのが感じられた。 地域・社会行事などの参加については、地域の機関や地域発信の年間行事カレンダーなどを大いに利用して欲しい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法	地域社会に対して本校の特色を活かしてできることは何かを考え、地域機関との連携をさらに進める。